

SASEBO 軍港クルーズ -SINCE2015-



⑪前畑地区



米軍施設の佐世保弾薬補給所(前畑弾薬庫:約58.2ha)がある。建物式弾薬庫22棟、トンネル式弾薬庫12棟がある。

⑩崎辺地区



海上自衛隊崎辺施設(約43ha)及びSSK用地がある。米軍LCAC施設があったが、H25.3に横瀬地区へ移転。

⑨針尾地区



米軍針尾弾薬集積所(約130ha、約50棟の弾薬庫)並びに、海上自衛隊針尾弾薬庫(約21ha、18棟の弾薬庫)がある。また、巨大な無線塔3基からなる針尾送信所がある。1922年(大正11年)完成。

⑧横瀬地区



米軍施設のうち横瀬貯油所・LCAC施設(H24.3完成、H25.3供用)がある。貯油所は8基の地下式タンクがあり、総貯油量は約43万kl。LCAC施設は埋め立て面積約6haを含む全体約12haの規模で、駐機可能隻数は最大12隻。

⑦高後崎～寄船崎

高後崎～寄船崎(西海市)は佐世保湾と外海をつなぐ唯一の航路である。その距離は約1kmほどしかない。昭和25年の朝鮮戦争後、敵艦からの攻撃に備え、米海軍により『防潜網』が設置され、夜間の出入りが禁止された。

⑥庵ノ浦地区



米軍施設のうち庵崎貯油所がある。5基のタンクがあり、総貯油量は約21.2万klあり、敷地の一部に海上自衛隊の貯油所もある。

⑤赤崎地区



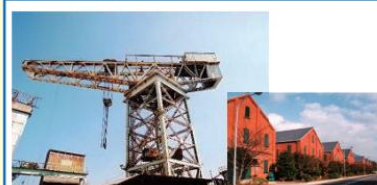
米軍施設のうち赤崎貯油所・赤崎岸壁(原子力潜水艦接岸岸壁)がある。貯油所は6基の地上式及び覆土式タンクがあり、総貯油量は約18.3万kl。

④ドック地区



6基のドックがある。第2ドックは米軍への提供施設で海自が共同使用している。第3ドックは、昭和43年にSSKが払い下げを受けたが、その際、返還使用協定が結ばれ、米軍側が7日前までに通告すれば無償で優先的に使用できるとの規定がある。また、第4ドックは、戦艦武蔵の艀装が行われた。

③立神地区 2



海軍さんの港まち佐世保のランドマーク250tクレーンは、大正2年(1913年)にイギリスより輸入された。巨大なクレーンは、当時、戦艦の巨大な砲身の取替え等に力を発揮したといわれる。また、レンガ造りの建物は、明治中期～大正にかけて造られたもので、全国的に貴重な近代化遺産。

②立神地区 1



立神係船池(インディアベースン)として9つの岸壁があり、平瀬地区と合わせ8隻の米艦船が使用している。海上自衛隊佐世保地方総監部立神棧橋1号・2号並びに造修所等の施設がある。

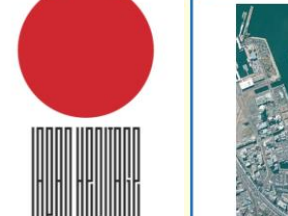
①平瀬地区



米軍施設のうち、司令部などの管理等、事務所、各種構成施設が整備された中心地区。平瀬係船池(ジュリエットベースン)の一部約5.8haを埋め立て、延長約505mの新岸壁が平成22年3月に完成

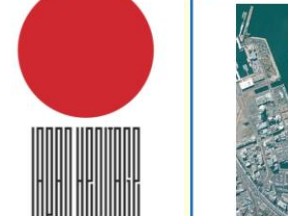


⑬倉島地区



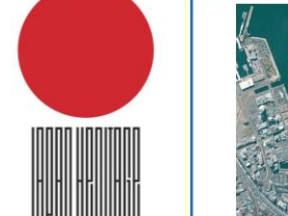
海上自衛隊倉島地区がある。平成13年度から岸壁整備に着手し、海自艦艇の係留施設として、-10m岸壁・延長417mが平成18年4月に供用開始された。

⑫前畑・干尽地区



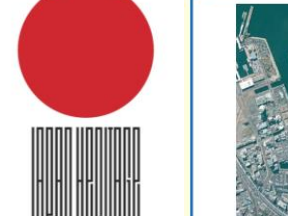
佐世保港の物流機能の中心的な役割を担う地区である。平成17年には前畑(-13m)岸壁が整備され、物流機能の発展が大きく期待される。

⑪前畑地区



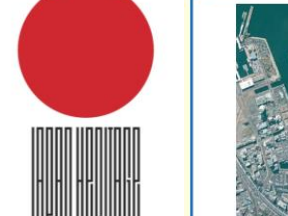
米軍施設の佐世保弾薬補給所(前畑弾薬庫:約58.2ha)がある。建物式弾薬庫22棟、トンネル式弾薬庫12棟がある。

⑩崎辺地区



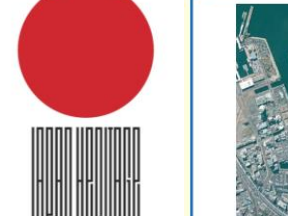
海上自衛隊崎辺施設(約43ha)及びSSK用地がある。米軍LCAC施設があったが、H25.3に横瀬地区へ移転。

⑨針尾地区



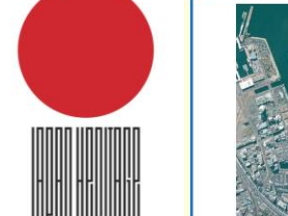
米軍針尾弾薬集積所(約130ha、約50棟の弾薬庫)並びに、海上自衛隊針尾弾薬庫(約21ha、18棟の弾薬庫)がある。また、巨大な無線塔3基からなる針尾送信所がある。1922年(大正11年)完成。

⑧横瀬地区



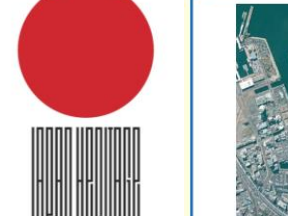
米軍施設のうち横瀬貯油所・LCAC施設(H24.3完成、H25.3供用)がある。貯油所は8基の地下式タンクがあり、総貯油量は約43万kl。LCAC施設は埋め立て面積約6haを含む全体約12haの規模で、駐機可能隻数は最大12隻。

⑦高後崎～寄船崎



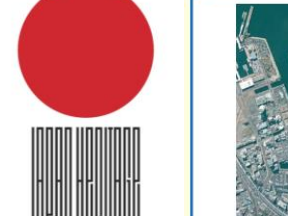
高後崎～寄船崎(西海市)は佐世保湾と外海をつなぐ唯一の航路である。その距離は約1kmほどしかない。昭和25年の朝鮮戦争後、敵艦からの攻撃に備え、米海軍により『防潜網』が設置され、夜間の出入りが禁止された。

⑥庵ノ浦地区



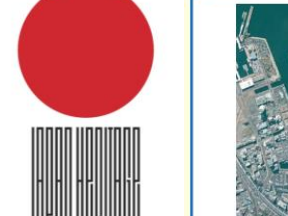
米軍施設のうち庵崎貯油所がある。5基のタンクがあり、総貯油量は約21.2万klあり、敷地の一部に海上自衛隊の貯油所もある。

⑤赤崎地区



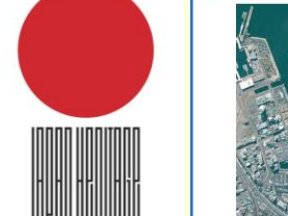
米軍施設のうち赤崎貯油所・赤崎岸壁(原子力潜水艦接岸岸壁)がある。貯油所は6基の地上式及び覆土式タンクがあり、総貯油量は約18.3万kl。

④ドック地区



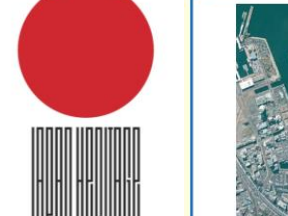
6基のドックがある。第2ドックは米軍への提供施設で海自が共同使用している。第3ドックは、昭和43年にSSKが払い下げを受けたが、その際、返還使用協定が結ばれ、米軍側が7日前までに通告すれば無償で優先的に使用できるとの規定がある。また、第4ドックは、戦艦武蔵の艀装が行われた。

③立神地区 2



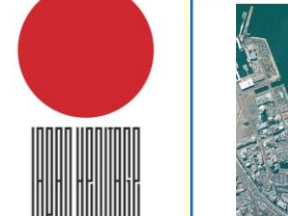
海軍さんの港まち佐世保のランドマーク250tクレーンは、大正2年(1913年)にイギリスより輸入された。巨大なクレーンは、当時、戦艦の巨大な砲身の取替え等に力を発揮したといわれる。また、レンガ造りの建物は、明治中期～大正にかけて造られたもので、全国的に貴重な近代化遺産。

②立神地区 1



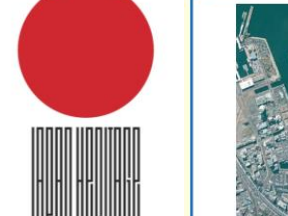
立神係船池(インディアベースン)として9つの岸壁があり、平瀬地区と合わせ8隻の米艦船が使用している。海上自衛隊佐世保地方総監部立神棧橋1号・2号並びに造修所等の施設がある。

①平瀬地区



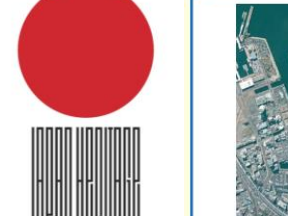
米軍施設のうち、司令部などの管理等、事務所、各種構成施設が整備された中心地区。平瀬係船池(ジュリエットベースン)の一部約5.8haを埋め立て、延長約505mの新岸壁が平成22年3月に完成

⑬倉島地区



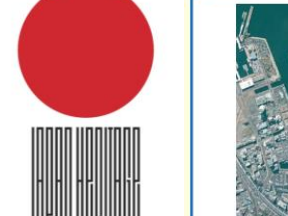
海上自衛隊倉島地区がある。平成13年度から岸壁整備に着手し、海自艦艇の係留施設として、-10m岸壁・延長417mが平成18年4月に供用開始された。

⑫前畑・干尽地区



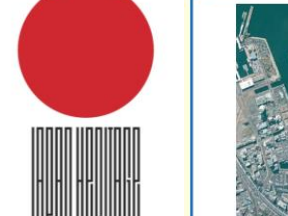
佐世保港の物流機能の中心的な役割を担う地区である。平成17年には前畑(-13m)岸壁が整備され、物流機能の発展が大きく期待される。

⑪前畑地区



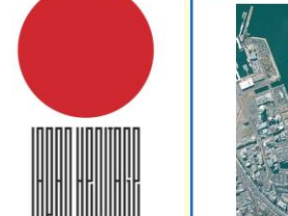
米軍施設の佐世保弾薬補給所(前畑弾薬庫:約58.2ha)がある。建物式弾薬庫22棟、トンネル式弾薬庫12棟がある。

⑩崎辺地区



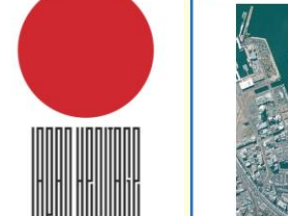
海上自衛隊崎辺施設(約43ha)及びSSK用地がある。米軍LCAC施設があったが、H25.3に横瀬地区へ移転。

⑨針尾地区



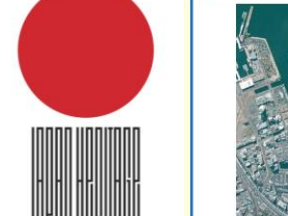
米軍針尾弾薬集積所(約130ha、約50棟の弾薬庫)並びに、海上自衛隊針尾弾薬庫(約21ha、18棟の弾薬庫)がある。また、巨大な無線塔3基からなる針尾送信所がある。1922年(大正11年)完成。

⑧横瀬地区



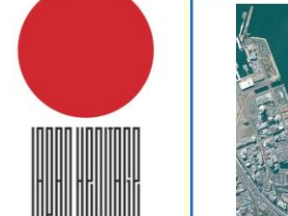
米軍施設のうち横瀬貯油所・LCAC施設(H24.3完成、H25.3供用)がある。貯油所は8基の地下式タンクがあり、総貯油量は約43万kl。LCAC施設は埋め立て面積約6haを含む全体約12haの規模で、駐機可能隻数は最大12隻。

⑦高後崎～寄船崎



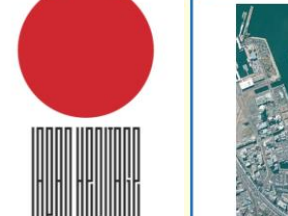
高後崎～寄船崎(西海市)は佐世保湾と外海をつなぐ唯一の航路である。その距離は約1kmほどしかない。昭和25年の朝鮮戦争後、敵艦からの攻撃に備え、米海軍により『防潜網』が設置され、夜間の出入りが禁止された。

⑥庵ノ浦地区



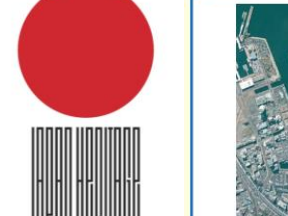
米軍施設のうち庵崎貯油所がある。5基のタンクがあり、総貯油量は約21.2万klあり、敷地の一部に海上自衛隊の貯油所もある。

⑤赤崎地区



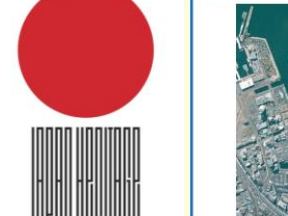
米軍施設のうち赤崎貯油所・赤崎岸壁(原子力潜水艦接岸岸壁)がある。貯油所は6基の地上式及び覆土式タンクがあり、総貯油量は約18.3万kl。

④ドック地区



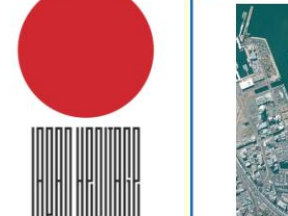
6基のドックがある。第2ドックは米軍への提供施設で海自が共同使用している。第3ドックは、昭和43年にSSKが払い下げを受けたが、その際、返還使用協定が結ばれ、米軍側が7日前までに通告すれば無償で優先的に使用できるとの規定がある。また、第4ドックは、戦艦武蔵の艀装が行われた。

③立神地区 2



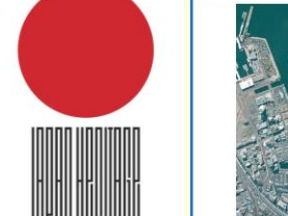
海軍さんの港まち佐世保のランドマーク250tクレーンは、大正2年(1913年)にイギリスより輸入された。巨大なクレーンは、当時、戦艦の巨大な砲身の取替え等に力を発揮したといわれる。また、レンガ造りの建物は、明治中期～大正にかけて造られたもので、全国的に貴重な近代化遺産。

②立神地区 1



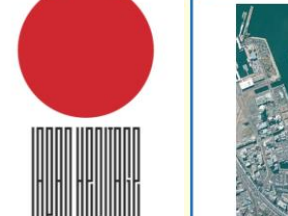
立神係船池(インディアベースン)として9つの岸壁があり、平瀬地区と合わせ8隻の米艦船が使用している。海上自衛隊佐世保地方総監部立神棧橋1号・2号並びに造修所等の施設がある。

①平瀬地区



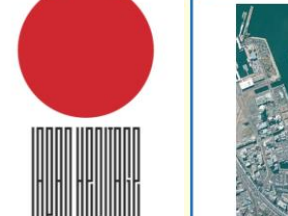
米軍施設のうち、司令部などの管理等、事務所、各種構成施設が整備された中心地区。平瀬係船池(ジュリエットベースン)の一部約5.8haを埋め立て、延長約505mの新岸壁が平成22年3月に完成

⑬倉島地区



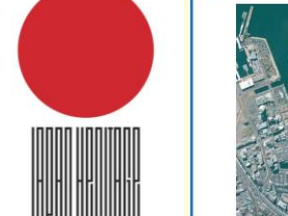
海上自衛隊倉島地区がある。平成13年度から岸壁整備に着手し、海自艦艇の係留施設として、-10m岸壁・延長417mが平成18年4月に供用開始された。

⑫前畑・干尽地区



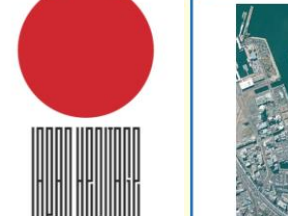
佐世保港の物流機能の中心的な役割を担う地区である。平成17年には前畑(-13m)岸壁が整備され、物流機能の発展が大きく期待される。

⑪前畑地区



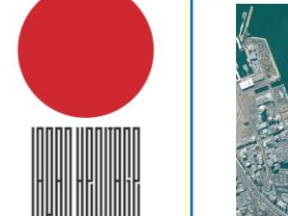
米軍施設の佐世保弾薬補給所(前畑弾薬庫:約58.2ha)がある。建物式弾薬庫22棟、トンネル式弾薬庫12棟がある。

⑩崎辺地区



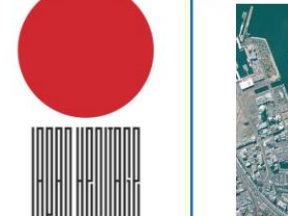
海上自衛隊崎辺施設(約43ha)及びSSK用地がある。米軍LCAC施設があったが、H25.3に横瀬地区へ移転。

⑨針尾地区



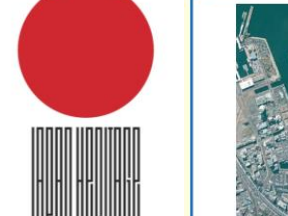
米軍針尾弾薬集積所(約130ha、約50棟の弾薬庫)並びに、海上自衛隊針尾弾薬庫(約21ha、18棟の弾薬庫)がある。また、巨大な無線塔3基からなる針尾送信所がある。1922年(大正11年)完成。

⑧横瀬地区



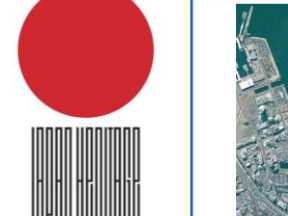
米軍施設のうち横瀬貯油所・LCAC施設(H24.3完成、H25.3供用)がある。貯油所は8基の地下式タンクがあり、総貯油量は約43万kl。LCAC施設は埋め立て面積約6haを含む全体約12haの規模で、駐機可能隻数は最大12隻。

⑦高後崎～寄船崎



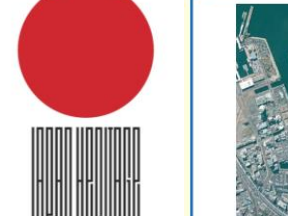
高後崎～寄船崎(西海市)は佐世保湾と外海をつなぐ唯一の航路である。その距離は約1kmほどしかない。昭和25年の朝鮮戦争後、敵艦からの攻撃に備え、米海軍により『防潜網』が設置され、夜間の出入りが禁止された。

⑥庵ノ浦地区



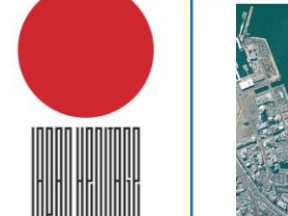
米軍施設のうち庵崎貯油所がある。5基のタンクがあり、総貯油量は約21.2万klあり、敷地の一部に海上自衛隊の貯油所もある。

⑤赤崎地区



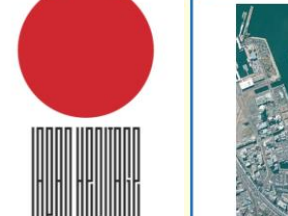
米軍施設のうち赤崎貯油所・赤崎岸壁(原子力潜水艦接岸岸壁)がある。貯油所は6基の地上式及び覆土式タンクがあり、総貯油量は約18.3万kl。

④ドック地区



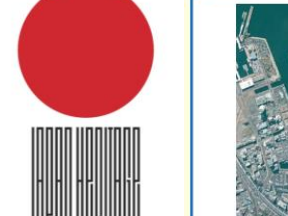
6基のドックがある。第2ドックは米軍への提供施設で海自が共同使用している。第3ドックは、昭和43年にSSKが払い下げを受けたが、その際、返還使用協定が結ばれ、米軍側が7日前までに通告すれば無償で優先的に使用できるとの規定がある。また、第4ドックは、戦艦武蔵の艀装が行われた。

③立神地区 2



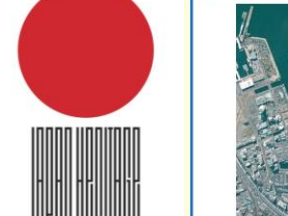
海軍さんの港まち佐世保のランドマーク250tクレーンは、大正2年(1913年)にイギリスより輸入された。巨大なクレーンは、当時、戦艦の巨大な砲身の取替え等に力を発揮したといわれる。また、レンガ造りの建物は、明治中期～大正にかけて造られたもので、全国的に貴重な近代化遺産。

②立神地区 1



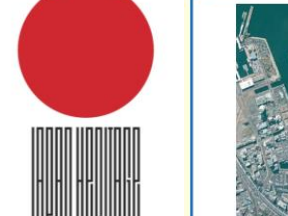
立神係船池(インディアベースン)として9つの岸壁があり、平瀬地区と合わせ8隻の米艦船が使用している。海上自衛隊佐世保地方総監部立神棧橋1号・2号並びに造修所等の施設がある。

①平瀬地区



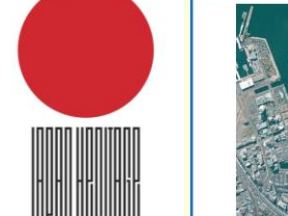
米軍施設のうち、司令部などの管理等、事務所、各種構成施設が整備された中心地区。平瀬係船池(ジュリエットベースン)の一部約5.8haを埋め立て、延長約505mの新岸壁が平成22年3月に完成

⑬倉島地区



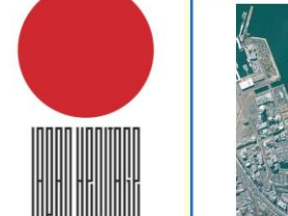
海上自衛隊倉島地区がある。平成13年度から岸壁整備に着手し、海自艦艇の係留施設として、-10m岸壁・延長417mが平成18年4月に供用開始された。

⑫前畑・干尽地区



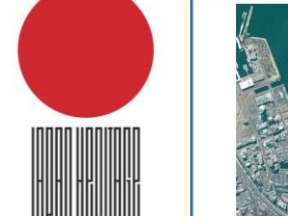
佐世保港の物流機能の中心的な役割を担う地区である。平成17年には前畑(-13m)岸壁が整備され、物流機能の発展が大きく期待される。

⑪前畑地区



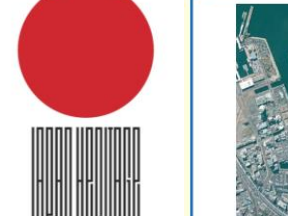
米軍施設の佐世保弾薬補給所(前畑弾薬庫:約58.2ha)がある。建物式弾薬庫22棟、トンネル式弾薬庫12棟がある。

⑩崎辺地区



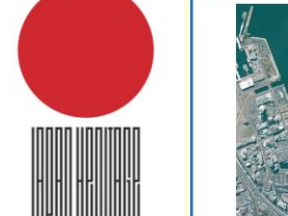
海上自衛隊崎辺施設(約43ha)及びSSK用地がある。米軍LCAC施設があったが、H25.3に横瀬地区へ移転。

⑨針尾地区



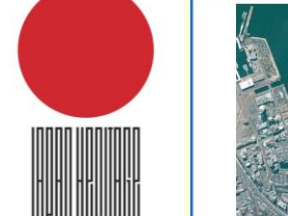
米軍針尾弾薬集積所(約130ha、約50棟の弾薬庫)並びに、海上自衛隊針尾弾薬庫(約21ha、18棟の弾薬庫)がある。また、巨大な無線塔3基からなる針尾送信所がある。1922年(大正11年)完成。

⑧横瀬地区



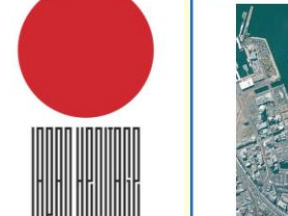
米軍施設のうち横瀬貯油所・LCAC施設(H24.3完成、H25.3供用)がある。貯油所は8基の地下式タンクがあり、総貯油量は約43万kl。LCAC施設は埋め立て面積約6haを含む全体約12haの規模で、駐機可能隻数は最大12隻。

⑦高後崎～寄船崎



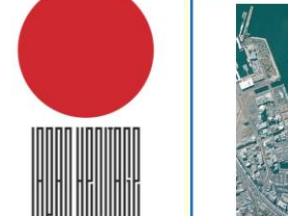
高後崎～寄船崎(西海市)は佐世保湾と外海をつなぐ唯一の航路である。その距離は約1kmほどしかない。昭和25年の朝鮮戦争後、敵艦からの攻撃に備え、米海軍により『防潜網』が設置され、夜間の出入りが禁止された。

⑥庵ノ浦地区



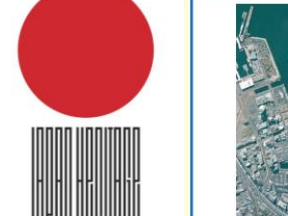
米軍施設のうち庵崎貯油所がある。5基のタンクがあり、総貯油量は約21.2万klあり、敷地の一部に海上自衛隊の貯油所もある。

⑤赤崎地区



米軍施設のうち赤崎貯油所・赤崎岸壁(原子力潜水艦接岸岸壁)がある。貯油所は6基の地上式及び覆土式タンクがあり、総貯油量は約18.3万kl。

④ドック地区



6基のドックがある。第2ドックは米軍への提供施設で海自が共同使用している。第3ドックは、昭和43年にSSKが払い下げを受けたが、その際、返還使用協定が結ばれ、米軍側が7日前までに通告すれば無償で優先的に使用できるとの規定がある。また、第4ドックは、戦艦武蔵の艀装が行われた。

③立神地区 2

